

健康メディカル学部 医療科学科

教育方法と教育の特色ある工夫

本学の各学科・コースは、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー、以下 CP）に基づき、それぞれの特色を活かした教育方法による授業を行っています。さらに、資格取得科目の充実など、教育方法に工夫を重ねながら、教育内容の向上に取り組んでいます。また、大学全体として、全学部生が共通して履修する必修科目、「フレッシュセミナー」「アドバンスセミナー」においては、少人数教育を実践しています。セミナー担当教員は、各学部・学科・コースの CP に基づく学修指導の他、学生生活全般にわたる指導を行っています。これにより学生は、社会人として求められる常識や教養等の汎用的能力と、各自の専攻分野や関心領域に関わる幅広い知識をバランス良く身につけることができます。この「セミナー」は、キャリア教育の一環として、学生の様々な相談にも応じています。

【教育方法】

建学の精神に基づき、実学を重視し、救急救命士コース、臨床工学コースともに、臨床実習を経験させ医学的専門知識を習得させるための授業を展開しています。両コースともに、国家試験受験資格取得を目標として、基礎学力を養成する教養科目の充実を図るとともに、大学としての質の保証と専門知識を習得させるため教員によるきめの細かい授業を進めています。また、救急医療サービスを担う救急救命士や、高度先進医療を支える臨床工学技士として求められる人間性を育むための教育にも十分配慮しています。

【教育の特色ある工夫】

救急救命士コース

- ・救急医学や蘇生学の最新の研究動向に対応し、プレホスピタルケアに関連する社会的問題を科学的思考に基づいて解決を図ることができる人材育成を行っています。
- ・「救急救命研究」では、救急医療の諸問題について毎回テーマを与えグループディスカッションで意見をまとめリーダーにプレゼンテーションをさせています。教員は、ファシリテーターとして適宜コメントを加え、最後にリフレクションを含めレポートを提出させます。これらの学修を通じて患者と救急救命士の間で最も必要とされるコミュニケーション能力の向上を図っています。
- ・「救急車内処置実習室」には、国内主要 2 車種の救急車内部を再現した「救急車シミュレータ」を設置しており、救急現場と同様の救急救命処置の教育が可能です。また、タブレット型パソコンを用い

て無線 LAN (Local Area Network) で制御する最新鋭の高度患者シミュレータを搭載し、脈拍や呼吸音・心電図・痙攣・発汗・顔色の変化・発声などの救急患者の状態を再現することができ、よりリアルな環境の下で学修することで学びを深めています。

- ・また、救急・災害現場を想定したシナリオを用意し、少人数グループに分けた学生たちがシナリオに取組み観察・判断・処置の正確性を競技するメディカルラリーを実施しています。

臨床工学コース

- ・医療エンジニアを育成することを目標に、理工系基礎力の養成を行うとともに、臨床現場で通用する実学を学べる教育体制を整えています。
- ・1、2年次においては、少人数クラス編成により、数学、電気、機械の基礎座学に加え電気系実験による体験学習を充実させ、「理解する」「考える」習慣が身につくよう指導をしています。
- ・臨床現場で扱う各種医療機器についてもこの時期に学ばせることにより、早い段階で医療現場への認識をもたせ、続く3年次においては、学内実習として、実際に医療機器を操作させることで実践力を身につけさせています。
- ・4年次では、それまでの学修の集大成として、臨床実習（病院実習）にて、現職の臨床工学技士の指導を受けながら実務を学ぶ機会を設定しています。
- ・これらすべての教育過程は、各専門の知識・経験と現場経験を有する教員により分担され、適切な指導を実施するとともに、学生の自発的な学びを尊重する体制としています。
- ・また、医療人としての資質や考え方についても、「セミナー」等の場を通じ、全学年にわたり指導が行き渡るよう配慮しています。